

最近知って驚いたんですが、僕が書き続けてきた、このゆるゆるエッセイもどき、2006年の原稿まで遡って読めるのね。インターネットつてすごいなあ、今更ですが。

でもって読み返してみましたが、オレ、こんなコト書いてたのか、恥ずかしいぞ、オレ!といった原稿が目白押し。「自分の作品」が残る事を誇らしく思えるヒトもいれば、それを、羨ましいね、と思える「観る側」のヒトもいるでしょうが、僕のこんな、「作品」などは到底呼べない、ただただコトバを垂れ流しているような文章、書いている本人としては、もう読み返したくない!というシロモノです。

しかしですね。

こうも長く連載を続けていると、クレームを頂くこともままありますし、嬉しい感想を寄せられることもあるワケです。嬉しい感想って、簡単にいうと「ほめてくれてるコトバ」ですね。僕が書いたことに共感してくれている。「分かる分かる!」とか「情景が目には浮かぶわー!」とか、共感を伴った嬉しい感想のコトバ。生まれつきアタマのネジが何本か抜けている僕は、ほめられる、ということにあまり慣れていないので、ふいにほめられるものすごく嬉しくて、照れてしまって、わざと不愛想な顔を作ってみましたりして、でも本当はココロの中ではちびりそうなくらい嬉しいんですよ。

最近、なかよしになったAYさんという女性がおりまして。AYさんは、海での夜釣りが好きだったり、野草を

採って食べるのが好きだったりする、チャージングなルックスと行動とのギャップがすごい、ある意味ワイルドな趣味をもつ女子です。

で、文章を読むのがとても好き、と。

AYさんは、どういうワケか僕のこの連載の愛読者という奇特なヒトでもあるんですね。

その彼女がぼつりと呟いた僕の文章への感想。

「疲れた時に読みます。」

驚きました。僕が長年連載を続けてきて、本当に、心から聞きたかったほめ言葉、「疲れた時に読む。」

疲れた時、邪魔にならない音楽をランダムに部屋に流すように、おそろくスマホで閲覧できる僕のエッセイ一覧ページから、どれを読むとも考えずにその時タップして出て来た文章をぼんやり眺める、と。

そんな嬉しいことを言ってくれるので、うんと昔に出版した唯一の拙著をプレゼントしたところ、「読みながら寝落ちしました」との、またまた嬉しい報告。

文章を読むって意味を読むワケですから、その時、脳は頑張ってるのでしようけど、難しい本を読むと眠くなる現象とは違い、読んでるうちに気持ちがあほれる、というのとはとても幸せなコメントです。僕のユルくてアイマイな思考や拙い筆力を、疲れた時に読む、という表現でAYさんがほめてくれた時、ちびりそうほどの嬉しさとは違う、温かなスーブを飲んだ時の幸せ、みたいな嬉しさを感じたんですね。

エッセイスト 北園修

横浜生まれ、横浜育ち。  
東京コピーライターズクラブ在籍。  
クリエイティブディレクター、エッセイスト。

四捨五入すりゃ30年近く特に派手なこともなくだから淡々と書き続けてきたワケですが、そういった何気ない、きつと無意識にAYさんの唇からこぼれた言葉で、なんというか、書き続けてきて良かったナ」としみじみしちやう相変わらず単純な僕です。

そう考えると、当たり前のようですが、何かについて感想を述べて色々な角度がありそうですね。AYさんが言ったのは「読むと疲れが取れる」ではなく「疲れた時に読むとぼんやりできる」という意味でしょうし、だからこそ、元氣が出る薬を処方するのではなく、緊張を取り除く処方箋を書きたいと意識してきた僕はその褒められ方がキモチの真ん中にフィットしたのかな。

ま、あんまり興味のあるヒトはいないと思いますが「北園修 エッセイ」で検索していただく過去のグダグダエッセイを読んでいただけようです。読まれたく、ないような、複雑な。まあ一応。



Photo:藤間 久子「Slowly」

岡山県生まれ。JPS(日本写真家協会)会員。カメラマンとして活動の傍ら、個展やフォト&エッセイなど自分の作品づくりに励んでいる。